

令和7年度 第1回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

令和7年5月29日（木）18:30～20:30

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者 10名…荒木、笥、加藤、清水、高澤、原田、丸岡、山岸、龍崎、荒井
欠席者 0名
事務局 2名…地域コミュニティ支援課 山岸、松本
指定管理者 2名…NPO法人YMCA コミュニティサポート 吉永、茂澤
傍聴者 1名

配布資料 1 利用状況、利用者の声
2 令和6年度事業報告
3 令和7年度事業計画
4 夏のボランティア・市民活動体験 2025 企画書
5-1 令和6年度及び令和7年4月新規登録団体、変更団体リスト
5-2 登録団体推移
6 令和7年度運営懇話会日程（案）

参考資料

- ・市民活動サポートセンター条例、同施行規則
- ・市民活動サポートセンター運営懇話会設置要綱
- ・市民活動サポートセンター運営懇話会傍聴要領
- ・市民活動サポートセンター運営懇話会名簿

1 座長の選任

「市民活動サポートセンター運営懇話会設置要綱」の規定に従い、構成員の互選により、座長は加藤氏となった。

2 座長職務代理者の指名

座長の加藤氏が、座長職務代理者に山岸氏を指名し、承認された。

3 報告事項

3-（1）利用状況、利用者の声について

指定管理者及び地域コミュニティ支援課から、資料1に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

○令和6年度の状況について

- ・令和6年度の年間利用者数は3万714人で、前年度比3%増、利用団体数も、前年度に比べ若干であるが増えている。
- ・備品の貸出実績は全体的に増えている傾向で、活動が活発になってきている状況が見られる。

- ・市民団体への情報化支援であるパソコン講座の開催実績は、基礎講座の受講者が若干であるが伸びており、上級講座であるフリープランの講座は前年度同水準であった。市民団体への情報化支援の在り方については、今後、新たな方向性を検討していきたい。
- ・令和6年度のコピー機の利用実績（収入）は、前年度比10%増、印刷機の利用実績（収入）は、前年度比10%減となっている。印刷機の利用状況については、今後、注視していく必要があると考えている。
- ・コーナー別利用者推移は、活動紹介コーナーの推移が特徴的で、6・8・3月が100人を超えて多く来館されており、活動紹介コーナーの展示が本施設に足を運ぶきっかけとなることがわかる。活動紹介コーナーの展示が活発になるよう力を入れていきたい。
- ・団体の活動分野で見た利用者数の推移は、「文化・芸術・スポーツ」の分野の利用が2020人と最も多く、次に「保健・医療・福祉」が1025人、その次に「社会教育」「まちづくり」「人権擁護・平和維持」が500人前後で推移し、多い傾向にある。
また、昨年度からの伸び率で見ると、「観光」の分野が29%で一番増加している状況である。
- ・利用者の声（アンケート）は、年間で104件のお声をいただき、施設に関するものが28件、サービスに関するものが19件、職員に関するものが11件、その他の感謝の言葉等が46件あった。
- ・ご意見、ご要望については、施設に関するものが7件、サービスに関するものが3件あった。詳細は、資料のとおり。

○令和7年4月の状況について

- ・令和7年4月の利用者数は3263人で、前年度比15%増、利用団体数は781団体で、ほぼ横ばいであった。また、データベース登録団体は763団体で、前月同数であった。
- ・備品の貸出実績は、前年度並みであった。
- ・パソコン講座の開催実績は、基礎講座が、前年同月8開催に対し0（ゼロ）となっている。上級講座であるフリープランは、前年度及び前月と比べても同水準での開催であった。
- ・コピー機の利用実績（収入）は、前年度比14%減、印刷機の利用実績（収入）も、前年度比で若干（4%）減となっている。
- ・曜日別の利用状況は、例月と同じ傾向で、月曜日の利用が少ない状況である。
一方、金曜日と日曜日の利用が、例月と比べると多い状況であり、総会等の準備（印刷などの作業）で日曜日に利用される方が多かった。
- ・活動紹介コーナーは、館内に2か所（センターエリアとフロントエリア）あり、掲示は最長2週間、1団体2回まで、半年先まで予約可能としている。
- ・利用状況は、年度初めということもあり、センターエリア、フロントエリア共に、まだ予約が埋まっていない状況。活動紹介コーナーの展示により、本施設に足を運んでもらえるきっかけになるため、盛況となるよう力を入れていきたい。
- ・利用者の声（アンケート）及びご意見、ご要望については、資料のとおり。

（地域コミュニティ支援課：久里浜について）

○令和6年度について

- ・令和6年度の年間利用者数は838人で、前年度780人に比べ7%増。
- ・エリア別内訳は、ミーティングスペースが376人、ワーキングスペースが462人。

- ・利用団体の内訳は、「学術・文化・芸術・スポーツ」の分野が110と最も多く、次に「まちづくり」、「子どもの健全育成」が共に52団体で次に多い状況。
- ・令和6年度の利用者数は、コロナ禍明けの傾向と同様、前年度に比べ増加（7%）しているが、過去2年の利用者数の増加率は、令和3年度から令和4年度が約18%、令和4年度から令和5年度が約23%となっており、利用者数の増加は落ち着き始めているのではないかと考えられる。
- ・令和6年度の年間団体数は356団体、前年度（363団体）とほぼ同水準推移している状況で、利用団体数についても、利用者数と同様に過去2年の増加率と比べ落ち着き始めている。
- ・令和6年度のコピー機、印刷機の収入状況は、前年度と同水準推移しており、直近3年間の収入ともほぼ同じ水準であったことから、今後もこの水準で推移していくのではないかと考えている。

○令和7年4月について

- ・令和7年4月の利用者数は94人で、前年度比14%減、利用団体数は48団体で、前年度比11%増であった。
- ・コピー機の利用実績（収入）は、前年度の5060円から大幅に減り、1160円であった。利用状況を、注視していきたい。
- 印刷機の利用実績（収入）は、前年度比で若干（5%）減となっている。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・曜日・時間別統計の時間の取り方について、非常にわかりづらい。第三者にも理解しやすいよう、今後、統計の取り方を考える必要がある。今年度はこれで良いが、いずれ見直しを検討していきたい。
 - ・データの時間帯の間隔に規則性がなく、利用状況を読み取ることが難しい。
- データの取り方の見直しを行っていきたい。（指定管理者・地域コミュニティ支援課）
- ・これまで、月曜日の利用が少ないことは議論になっていたが、更に見ると、日曜の夜から利用が少ないことが見て取れる。日、月曜の21時以降の利用は、他の曜日と比べるとかなり少ない。少ないながらも利用者がある中で閉館しても良いのかという議論もあるかと思うが、施設の稼働率や職員の働き方改革の観点からも、検討することは必要だと思う。
- 今年度から、本懇話会も新たなメンバーで新しい任期がはじまった機会でもあるので、いろんな見方をすることも会の方向性としては良いのではないかと。
- 県内の市町村では、コロナ禍を契機に開館時間を短縮しているところもあると聞いている。
- 他都市を参考としながら、開館時間について検討していきたい。（地域コミュニティ支援課）
- ・利用者がある中で、一律、全ての日で開館時間を短縮するのではなく、データに基づいて稼働率が低い日は、早めに閉館しても影響は大きくないのでは。本懇話会でも議論していければ良い。
- 21時以降はコロナ禍前から利用が少ない状況。コロナ禍が明けた後、他の時間帯は利用が回復しているが、21時以降は戻って来っていない。費用対効果を見る必要はある。
- また、「少ないながらも利用者がある中で閉館しても良いのか」という点については、しっかり利用者のニーズを検証していく必要がある。（地域コミュニティ支援課）
- ・日曜日と月曜日の21時の利用者について、団体利用なのか、個人での利用なのか。
- また、昨年度の他の月の数字を分析して見えてくるものもあるのではないかと。
- 団体で利用するケースもあるが、おおよそは個人での利用である。昨年度の数字を検証していきたい。（指定管理者）

・利用状況の把握は、紙ベースの利用票で集計していると思うが、例えば、団体ごとにバーコードを配り、来館時に利用登録してもらうなど、デジタル化を図ってはどうか。集計も簡単になるのではないか。

→デジタル化することにより、スタッフの負担も軽減される。導入にあたり費用面がネックになると思われるが、他市町村を参考にし、今後、継続してデータ集計出来るような仕組みを慎重に検討していきたい。（指定管理者）

・システム化することによって、効率的なデータ集計や労力を省くことが出来るので、少しずつでも取り組んでいくべきかと思う。

・活動紹介コーナーの見学だけに来た人は、利用票を書いているとは思えないが、どう集計しているか。

→受付にいるスタッフが目視でカウントしている。（指定管理者）

・コピー機及び印刷機は、団体等がどのようなものをコピー、印刷しているかを把握しているか。

→把握していないが、会合の資料等の作成で使用しているのではないかと思う。（指定管理者）

・資料の中でコピー機、印刷機の収入状況を示しているが、売り上げを上げることを目指しているということか。

世の中の流れとして、会議資料等は、紙ベースよりデジタル化する流れである。コピー機、印刷機の在り方をどう考えているか。

→コピー機、印刷機については、設置は指定管理業務の中で定め、運用は指定管理者の自主事業で行っている。（地域コミュニティ支援課）

→コピー機、印刷機は、指定管理者の収入となる。

収益の状況が悪くなれば、サービスの在り方としてコピー機、印刷機の設置について考えなければならないが、現状、需要はあると判断しているため、まずは、市民サービスの1つとして設置を第一に考えている。よって、サービスとしての利用促進を図るという意味で、収入を上げることを考えている。

収入状況が悪くなるようであれば、設置台数を減らすなど、適正な運用を図っていく必要があると考えている。（指定管理者）

・市民サービスを考えるのであれば、コピー機、印刷機に関わらず、今後、アナログとデジタル含め、どういった機器やサービスを提供していくかをしっかり考えないと、時代と合わなくなってしまうのではないか。

→現状、コピー機、印刷機を利用している人は多くいるため、設置については、損益分岐点を意識しながら運用していくことが良いのではないかと考えている。（地域コミュニティ支援課）

・印刷機は、本施設の他に設置しているところはあるのか。

総会資料等で大量印刷する時には、印刷機はコピー機に比べ安価に利用出来るため、非常にありがたいサービスである。

→近隣施設にはないと認識している。（指定管理者）

・コピー機、印刷機の必要性については理解しているが、今後、紙ベースではなく、デジタル化していくことも考えていかなければならないことと考える。

・コピー機、印刷機を、どの分野、どの団体が使っているかについては、領収書を発行する際に把握することは出来るのではないか。

- ・昨年度、情報誌のたろんにおいて、A3は他と比べて安いとか、本施設のコピー機等の混雑情報を掲載したことがあったが、本施設の強みをアピール出来ると利用促進に繋がると思う。
- ・開館時間やサービスを見直す際は、利用者の意見をしっかりと聞いて欲しい。例えば、ワーキングコーナーであれば、会議と一緒に作業が出来ることや、近隣施設にはない印刷機があることが魅力になるので、そういった声を大事にして欲しい。良い方向に見直しが出来るといい。
- ・令和7年4月の分野別利用者数推移について、「保健・医療・福祉」と「文化・芸術・スポーツ」の利用が多いが、具体的にどんな団体か。
- 「保健・医療・福祉」の分野は、社会福祉、認知症予防、介護予防などの団体、「文化・芸術・スポーツ」の分野は、スポーツ団体などが多い。（指定管理者）
- ・本施設をどんな団体が、どのような目的で使っているかを見極めた上で議論する必要があると考える。団体の内訳があると良い。
- ・本施設には、市民団体のPRのためのパンフレット等は置いてあるか。
- 本施設に登録のある団体については、各団体から提供があったものを置いている。（指定管理者）

3-（2）令和6年度事業報告について

指定管理者から、資料2に沿って報告した。

（指定管理者）

- ・コロナ禍以降の団体の活動が徐々に回復し、本施設の利用者数も3万人を超えたが、コロナ禍前の水準には戻っていない。コロナ禍後は、生活様式が変わり新しい時代に入ったと考察しているため、今後も利用者の人数は注視していきたい。
- ・相談業務においては、窓口での相談が年間438件、また、常勤職員が対応している団体の設立や運営に関する相談が44件あった。
- ・連絡調整業務では、市の関係部署や生涯学習センター、ボランティアセンターと協働しながら、地域を巻き込んで活動が出来たと考えている。
- ・自主事業として、大型印刷出力サービスやロッカーの貸し出し、パソコン講座の開催を行った。
- ・ボランティア・市民活動人材育成事業として、「4Sクラブ」において、シニアの活動の場を提供し、地域での活動支援を行うため、自治会・町内会への支援について討議を行い、地域の様子が見える契機となった。
- ・市民活動の「場」の創出として、「夏のボランティア・市民活動体験」を毎年実施しているが、例年、開催期間の終わりを8月31日としていたものを、令和6年度は、大学生の参加を推進するため9月15日まで延長、市民団体の皆様から評価の声をいただいた。今後も継続していきたい。
- ・「のたろんフェア2025」を2月8日（土）、9日（日）に開催し、市民団体95団体が参加、一般来場者も2,215人訪れ、昨年を上回った。
- ・市民団体の組織強化支援について、市民団体の悩みである、参加者が集まらない、新しい人が入らない、団体の存続も難しいという方々に対し、学習支援の場として、法人格について学ぶ学習会や、強みを活かして団体を元気にしようという学習会を開催した。
- ・地域連携による地域課題、社会課題への対応として、「よこすか子育て応援ネットワーク」とともにピンクシャツデー運動の啓発に取り組んだ。

- ・市民活動の啓発として、「市民活動団体支援交流会」を実施し、ゲストスピーカー迎え、一般の方々と共に意見交換を行った。今後の繋がりに結び付けたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

質問・意見なし

3-(3) 令和7年度事業計画について

指定管理者から、資料3に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・令和7年度は、指定管理5期目の4年目となる。
- ・団体の高齢化問題に対して、次の担い手の育成活動や企業や団体等との協働を通して、持続可能な市民活動の支援を行っていく。
- ・施設管理については、安心安全な環境を整えるとともに、ホスピタリティのある接客を目指す。
- ・連絡調整業務では、次世代の担い手である「こども」に対し、市民活動を知ってもらう取り組みを行っていきたい。
- ・情報収集・提供、交流・学習機会の提供、自主事業については、これまで通り実施していく。

(懇話会構成員からの質問・意見)

質問・意見なし

3-(4) 夏のボランティア・市民活動体験 2025 について

指定管理者から、資料4に沿って説明した。

(指定管理者)

- ・今年度も、夏休み期間中の7月15日から9月15日の期間で実施する。
- ・既に参加団体の募集は終了し、参加団体数は、昨年度の36団体より数団体増える見込みである。
- ・広報については、イベント紹介冊子の配架、ポスター掲示のほか、大学との連携やラジオによりPRしていく予定。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・「関東学院大学PR」とは、何を行うのか。
- イベントの概要、具体的なボランティア機会の提供についてのスライドを作成し、授業の教材として取り扱ってもらう。また、学内のオンライン掲示板にスライド等の情報を掲示してもらう。

(指定管理者)

4 議題

サポートセンターデータベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から、資料5に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

(指定管理者)

- ・令和6年度は、新規登録が31団体で、互助的組織や営利目的の団体において、一部、公益性がないと判断される団体があった。削除は、19団体であった。

その中で、前回の懇話会（2月）以降、4団体が新規登録されたが、1団体が互助的組織であるため公益性がないと判断した団体があったので、新たに報告する。

- ・令和7年4月の登録の状況は、新規登録が1団体、削除は1団体あった。

（懇話会構成員からの質問・意見）

質問・意見なし

5 その他

令和7年度運営懇話会開催日時について

地域コミュニティ支援課から、資料6に沿って説明した。

（地域コミュニティ支援課）

- ・これまでの本懇話会は、5月・8月・11月・2月の第3木曜日の18時30分～20時00分を基本として実施しており、令和6年度の最後の懇話会（2月）においても、今年度の日程案をこれまで通りの第3木曜日で提示していた。
しかし、今年度は、構成員の予定を踏まえ日程を決めることと見直しを行いたく、事前に構成員の予定を調整させてもらい、資料6のと通りの日程で開催していきたい。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・日程（案）どおりで問題ない。

連絡事項

（地域コミュニティ支援課）

- ・「市民公益活動人材育成研修受講奨励金」の令和7年度の募集が、6月2日（月）からはじまる。
市ホームページには既に掲載しており、サポートセンター登録団体には、6月に案内を送付する予定。
- ・第2回運営懇話会は、8月28日（木）18：30からサポートセンターにて開催予定。